教科等研究会（中学校美術部会）

令和６年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

つなぐ・つながる造形教育

自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成

児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開の工夫

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
６/７	２５人	龍野小学校	8/1	龍野小学校	指導案検討 実技研修会（木版画）	11/1	広安西小学校	木下　雅子教諭	1/23	嘉島中学校	野口　良美教諭

３　研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマについて

本年度も昨年に続き「つなぐ・つながる造形教育」をテーマに研究に取り組んだ。大本となった「第６４回熊本県図画工作・美術教育研究会　宇城・上益城ブロック大会」では、「つなぐ・つながる」の定義を次のように示している。

○「つなぐ」とは、教師が子どもと対象を結び付けて造形活動を設定すること

○「つながる」とは、その中で子どもが主体的に他者や他のものとのつながり、造形力を高め豊かな心を培っていくこと

とある。つなぐ・つながる造形教育を通して美術作品をはじめ教師と生徒、友だち同士、地域社会等のと「つながり」が深まることが期待されている。

また、「自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成」「児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開」に迫る研究の視点は以下の通りである。

1 児童生徒が自信を持って制作に取り組める題材の工夫
2 児童生徒が自信を持って制作に取り組める授業展開の工夫
3 自分の思いを表現できる、自由に言える人的環境や学習空間づくり

② 実技研修について

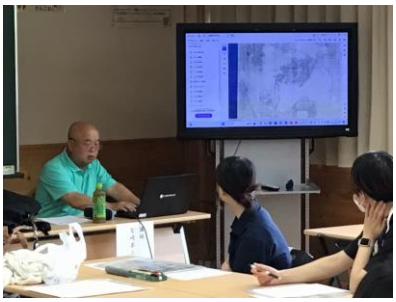
本年度の実技研修では、以前より上益城郡版画展の審査員としてお世話になっていた木版画家の宮﨑不二男先生を招き、木版画の材料選定や木版画制作の工程などを学び、研鑽を積んだ。今回木版画を主題に研修を行ったのは職員アンケートの結果を受けてである。研修は木版画制作が盛んな小学校会員を中心とした、制作、指導方法への悩みに答える形で進行した。実技はＢ４サイズ大ほどの板に共通したデザインを使い、彫る場所を各自自由に決めながら制作を行った。授業に取り入れることが可能な効果的な手順や、児童、生徒が陥りやすい課題についての対応方法を学ぶことができた。最後には宮﨑先生が過去に指導を行った児童の作品を用いて、版画表現におけるモチーフの選び方や構図などを指導していただいた。

講師の木版画家
宮﨑不二男先生

主題と背景について道具と
彫り方の具体的な説明

デザインのサンプルに
各々彫り方を考え制作

小・中学校の職員では彫り方
の発想に違いが見られた



過去の児童作品を用いた
構図の説明

一問一答の形式で参加者の
悩みに答えていただいた

③ 授業研究について

本部会では、小学校図工部会、中学校美術部会合同で 2 回の授業研究会を行った。小学校からは広安西小学校の木下雅子教諭、中学校からは嘉島中学校の野口良美教諭が研究授業を実施した。校種の異なる授業を参観し、授業検討を行うことで、新鮮な意見交換やそれぞれの立場では気づかなかった新しい視点での授業づくりがなされることに大きな意義を感じた。

(2) 成果と課題（○：成果　●：課題）

○実技研修の内容を、アンケートをもとに選定したことで、会員のニーズに合った研修会を開催することができた。

○昨年に引き続き同じテーマで研究を行ったことで、より理解を深めることができた。

○ＩＣＴの活用について、大型ディスプレイやタブレット端末の活用が一般的となり、日常的な使用方法や、あえて使用しない場面など、効果的な活用方法について情報を共有することができた。

●互いの実践報告を行い、成功例や悩みを共有する場面を設定することはできたが、具体物が無く、協議する内容に限界があった。より深く情報共有を行う為にも、生徒作品の画像等を持ちより具体的に話し合う機会を作っていきたい。

4　実践事例

(1) 授業の概要

今回の授業は、嘉島町に設置することを仮定に、オリジナルのオブジェを置くことでどのような空間にしたいのかという願いや思い、作品と場所との調和などを意識して形や色などを工夫する学習内容である。また、上益城郡教科等研究会図工・美術部会のテーマである「つなぐ・つながる造形教育・自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成・児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開の工夫」から、生まれ育った地域とのつながりを改めて感じたり、作品と鑑賞者とのつながりを感じたりすることができる題材として構想された。授業では前時に構想したデザインをもとに油粘土を用いてマケットの制作を行った。中学校ではあまり使用することが無い素材であるが、簡単に形をつくることができるので、生徒たちは楽しみながらデザインを立体に起こし、実際の見え方や課題を確認しながら構想の練り直しを活発に行っていた。

学習構想案

（1）目標　作品を置く環境を意識することで主題を生み出し、単純化や省略、バランスなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。

（2）展開

過程	時間	学習活動 （◇予想される生徒の発言）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図、内容、方法等）
導入	5分	1　前時の学習を振り返る。 ◇彫刻作品で大切なポイントは、単純化や省略、バランスがヒントになったね。 2　本時の学習のめあてについて考える。 **【本時の目標（めあて）】** **鑑賞者の立場に立ってオブジェの構想を練り、マケットを作ろう。** **【学習課題】** **アイデアスケッチをグループ内で発表し、互いの良さを伝え合い、作品のアイデアを練り直して、マケットを作ろう。**	○彫刻表現において美しく見えるポイントは構成美に由来することを確認する。
展開	35分	3　グループで各自が考えたアイデアについて、作品のテーマ、設置の理由を発表する。さらにグループ内で互いのよさを伝え合ったり指摘や助言をもらったりする。 4　友達のアドバイスをもとに共通事項を意識して構想を練り直す。 ◇友達の助言を自分の作品に取り入れてみよう。 5　練り直したアイデアスケッチをもとに実際に粘土に触れ、立体的なイメージを形で捉える。 【期待される学びの姿】 友人の助言をもとに客観的な意見から自分の作品を見つめなおし、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っ	○友人のアイデアスケッチにアドバイスする際に、制作者はなぜその場所を選んだか、作品の主題、鑑賞者にとってどのような場所であってほしいのかなどについて補足説明する。 ○アイデアスケッチには絵だけでなく、言葉を添えてイメージを具現化させる。 ○特に発想や構想がよく練られたアイデアスケッチを大型テレビで見せ、作者の思いが、どのような形で表現しようとしているかを紹介し、手立てとする。 ○丸める、握る、伸ばす、引っ張る、ねじる、ひねる・・・など、粘土の可塑性を生かして自由に表現させる。 ○対話的な学びから、自分の気づかなかったよさや表現の意図、創造的な工夫などを発見する。 【具体の評価規準】思① ○単純化や省略などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 （ワークシート・生徒の発言） **【到達していない生徒への手立て】** ○イメージがもてない場合は、1次で共有した「嘉島町のよいところ」や「将来どのような町になってほしいのか」を書いた付箋の掲示物をヒントに、キーワードを探り、主題について考えさせたりする。 ○イメージする内容について考えていることを話し合わせて他者の意見を参考にさせるなどして、構想しやすくする。
終末	10分	6　作成したマケットを2方向からタブレットで撮影し、次時の学習につなげる。 ◇自分のイメージに近いマケットができた。アドバイスされた意見を自分のアイデアに取り入れ、さらに改善していこう。	○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法等を共有する。 ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に行う。

前時の学習内容と本時の目標の確認が丁寧に行われた

生徒にたちは久しぶりに触れる油粘土に喜んでいた

学習形態は３人班を基本に活発な活動を促していた

≪授業後の感想より≫

- オブジェを作る授業を受けたことも参観したこともなかったので、とても興味深く見せていただきました。小学生は粘土が大好きなのですが、中学生も今日の授業で楽しかったと思います。
- ３人班での活動をする中で、自分の考えを発信することと、友だちの意見を参考にすることで、構想をより練りやすく、考える時間ができるのではないかと思いました。グループでアドバイスや良さを伝え合う活動は、授業をするうえで取り入れることもありますが、充実した時間にするには…、と、悩むことも多くあります。授業を見させていただきとても勉強になりました。
- 「鑑賞者の立場に立って」という相手意識を持たせてスタート（確認）したのが良かったし、見る人に感じてほしい思いや願いをしっかり言葉や絵に表現していたことで、自信を持って造形に取り組んでいたように思いました。制作したマケットを見せ合う時間があるとより良かったと思います。
- 最後に粘土作品を写真に撮ってすぐ壊してしまわなければならなかったことを残念に思っていた生徒が多かったように思います。せっかく作った作品をもっと他の人に見てほしいという思いがあったのではないでしょうか。写真で見るか粘土本体を見るかで伝わるものも感じるものも違うと思います。今回は１単位時間での授業だったのでしょうがないかとも思いますが、子どもたちの「せっかく作ったのに…」の思いを大事にしていくにはどうすればいいか、また考えていければと思います。
- 話し合い活動については、活用法とあり方を含めて考える時が来ているのかなと思います。特にアドバイスについては批判的な視点の受け入れが子ども側にないと、「答えのない問い」に関して、たくさんの価値観が交流することになります。その取扱いを子どもがフェアに選んでいける問いかけがいる時期に来たのかなと思っています。これからみんなで考えてきたいと思っているので互いに頑張りましょう。